

## 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

## ①木下武男著『労働組合とは何か』岩波書店

(2021年3月刊, xi+288p, 新書判)

「仕事がつらい」「転職しても状況は変わらない」「先が見えない」——著者はこんなときこそ労働組合が頼りになるのではないかと指摘する。労組は従来、貧しく虐げられた人たちが身を守り、生きるために闘う武器だったはずだと強調しつつも、実際には何をしているのかわかりづらいという。一番存在感を示すのは、春闘で大企業の賃上げが報道されるときだとしたうえで、日本の労組の力が欧米諸国に比べて弱いのは「世界標準の産業別組合(ユニオニズム)」の伝統が根をおろしていなかったことが影響していると分析。ユニオニズムの種は戦前の日本にも持ち込まれていたが、戦後になり育つうちに、世界であまり見たことのない土着の花(企業別組合)を咲かせてしまったと解説する。

著者は、日本でユニオニズムを創造するには、戦後続いた企業頼みの生活、企業中心の労働、家族を犠牲にした暮らしから解放され、自分の人生や仲間を大切に生き方に転換すべきだと主張。そのために、①労組のルーツを歴史から探る②ユニオニズム理論を学ぶ③労組の未来を構想する——などを再考するよう提案する。

## ②野田実希著『「働くわたし」を失うとき』京都大学学術出版会

(2021年3月刊, vii+233p, A5判)

現在、過労によるうつ病をはじめとした労働者のメンタルヘルスが社会問題化している。「うつは怠け」「病気になるまで働かなくてもいいのに」「心身の健康を管理するのも仕事のうち」などの言葉が病人本人に直接投げかけられることも少なくない。しかし、心を病むまで働かざるをえない本人の背景に目を向けるとき、職場環境や本人の心理的な問題を越えて、「働くわたし」を含めた個人のありようが問われるようになるという。本書は、就業形態が多様化し、職業生活が過酷さを増すなか、本来の「わたし」を生きるという感覚を大切にすることが、経営側、働く本人の双方から忘れ去られてしまっていないか、という疑問を出発点としている。

さらに本書は臨床心理学の観点によりメンタルヘルス不調に伴う病気休業(病休)の体験を、労働者の語りから読み解いていく。病休で「働くわたし」を失うとき、人は何を、どのように語るのか。その語りに耳を傾けながら、労使など当事者から丁寧な聞き取りを実施。「働かないわたし」をいかに受け入れるかが重要なテーマになるとの視点も盛り込んでいる。

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2021年4月-2021年5月労働図書館受け入れ)

## ③松浦弥太郎著『仕事のためのセンス入門』

筑摩書房(159頁, 四六判)

## ④本間圭一著『イギリス労働党歴史』

高文研(351頁, 四六判)

## ⑤尾形真実哉著『中途採用人材を活かすマネジメント』

生産性出版(212頁, A5判)

## ⑥加藤博著『パラダイムチェンジの時代に適応するための2つの改革』

日本生産性本部生産性労働情報センター(135頁, A5判)

## ⑦岩出誠編著『判例解釈でひもとく働き方改革関連法と企業対応策』

清文社(16+391頁, A5判)

## ⑧石角友愛著『“経験ゼロ”から始めるA I時代の新キャリアデザイン』

KADOKAWA(246頁, 四六判)

## ⑨佐藤忍著『日本の外国人労働者受け入れ政策』

ナカニシヤ出版(x+333頁, A5判)

## ⑩中野淑子著『あなたの大切なひとを守るために』

旬報社(189頁, 四六判)

## ⑪ヴィラーグ・ヴィクトル著『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』

中央法規出版(217頁, A5判)

## ⑫神山典士著『社員の幸せを創る経営』

幻冬舎メディアコンサルティング(209頁, 四六判)

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書126,779冊、洋書33,015冊、和洋の製本雑誌27,479冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(260種)、洋雑誌(139種)、紀要等(530種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659

利用資格:どなたでもご自由にご利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証など)をお持ちください

レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています



※現在、新型コロナウイルス流行の影響で臨時閉館している場合があります。開館情報はHPでご確認下さい。